

令和8年度「健やかな体」育成プログラム

学校番号：23025

学校名：栄緑小学校

	令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果	分析
体力・運動能力 <男子>	○前回の記録と同程度もしくは、上回った種目 ・握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、 20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、 ソフトボール投げ ○前回の記録より下回った種目 なし	休み時間や放課後に投げる遊びをよく行うこと、スポーツ少年団の加入が多い学年ということもあり、握力やボール投げの結果に影響していることが考えられる。縄跳び運動、体育でのヒートアップ運動などにより、走力に関連する項目の成果も表れている。
体力・運動能力 <女子>	○前回の記録と同程度もしくは、上回った種目 ・握力、反復横跳び、20mシャトルラン、 50m走、ソフトボール投げ ○前回の記録より下回った種目 ・上体起こし、長座体前屈、立ち幅とび	体育を除く運動時間が全国平均よりも曜日に関わらず多いことが結果と結び付いている。反復横跳びやシャトルランなど、低学年のころから経験し、慣れ親しんでいることも大きい。児童の力を把握し、三間の創出による運動機会の充実を図っていく。
運動・スポーツへの意識、 運動習慣	「友達と助け合ったり教え合ったりして学習することでできたり分かったりすることがある」と回答する割合は、R6は男子75%、女子95.3%で、R7は男子94.8%、女子91.6%。 「タブレットなどのICTを使って学習することで、できたり分かったりすることがある」と回答した割合はR6が男子70%、女子76.2%でR7は男子が89.5%、女子80%。	協動的な学びにより意欲的に取り組む傾向がある。ICTの使用も効果があることが分かった。個別最適な学びと協動的な学びを充実させ、運動の楽しさに触れられる学習をより推進していきたい。

三つの取組

①体育・保健体育等の授業の充実

②授業以外で子どもの運動機会を創出する取組

③子どもが自ら健康の保持増進を図る取組

具体的な取組

・子どもが運動の楽しさに触れられる課題探究的な学習」の推進

- ・課題探究的な学習を取り入れた体育の授業改善を行い、身に付けさせたい動きや高めたい力を意識し、運動量の確保と運動の質を高める。ICTの効果的な活用も行っていく。
- ・縄跳びや持久力を高める運動（ヒートアップ運動）などを、体育の授業へ位置付ける。その際、音楽に合わせて取り組むなど、楽しく継続した取組のもと、体力向上を図っていく。

- ・運動機会の充実を図る環境整備の推進
- ・三間（仲間、時間、空間）の創出により、運動機会の充実を図る取組
- ・子どもによる運動機会を創出する取組の立案・実現

- ・グラウンドにドッジボールコートなどを作ったり、特別教室の使い方を工夫したりすることによって、休み時間も楽しみながら運動に親しむことができるような環境整備を行う。
- ・マット跳び箱週間と併せて、短縄や長縄跳びの取組を推進していく。児童同士で高め合える場になるような工夫をしていきたい。

- ・各教科等の内容を関連付けた健康教育の推進
- ・健康的な運動・生活習慣づくりの推進
- ・外部講師活用など家庭・地域との連携・協働

- ・「わくわく健康プラン」による健康、安全や食に関する学習を担任、養護教諭、栄養教諭の協働により、指導の充実を図る。
- ・助産師、歯科衛生士など、外部講師の積極的な活用を図り、健康や安全、食に対する正しい知識と実践力を身に付けられるようにする。

家庭・地域との連携・協働

- 健康づくりについての取組をHPやお便り等で家庭や地域に伝えることを通して、健康的な生活習慣の定着を図る。わくわく健康プランでは、実践を記録した「わくわくけんこうノート」を定期的に持ち帰ることで、保護者とも児童の健康状態や食生活について共有を図るようにしている。
- 健康診断後に学校医と懇談の時間を設けている。児童の健康状態や感染症対策についての助言を学校での健康指導に生かすようにしている。